

〔文献紹介〕

陳 正祥 中国歴史與文化地理図冊（第一冊）

史実の多く、とりわけ地域的な分布に関するそれは、単に文字を用いて記述するのみでは明瞭に示しえない。そこで地図を使えば一目瞭然となる。ここにおいて歴史地図の作成が重要な意義をもってくるのである。

中国は悠久の歴史をもっている。その歴史は日本人の強い関心を呼びおこし、歴大な研究がなされてきた。しかし残念ながら地図の使用はわずかであった。最近出版された「中国歴史與文化地理図冊」は、地理学者のこの種の渴をいやすものである。さらにまた、古文獻の徹底的な地図化は地理学の研究方法にも大きな示唆を与えよう。

この大冊は、国際的に著名な陳正祥博士の編著になるものである。第二冊以下を含め総計二六八葉の地図を含み、国際研究中国之家出版「中国研究叢書」第七号にあたる。図幅は五〇×三六・五cmで、製図の技術は水準が高く、印刷も良好である。既存の、他人の資料を補充して作成した二葉を除き、他はすべて新たに創作されたものであり、そこにこの地図集の特徴がある。一葉の地図を作成するために、数ヶ月から数年の努力を要したといわれる。陳教授はこの地図集を二〇余年かかって完成されたのである。

第一集は「中国歴史和文化発展之自然限制」として、まず氣候、地形等、中国の歴史と文化発展の自然的基盤を説明している。それに殷、周、秦、漢各王朝の地図が続いている。唐代を例にとると、

まず疆域の変遷図、人口分布図（州を統計・製図の単位とし、一点一万人のドット・マップ）、人口密度図、「詩人」と「進士」の本籍別分布図である。「進士」の分布については、安史の乱をはさむ二期にわかつて示している。それによつて盛唐以後の中国における文化中心の東南への移動が明瞭となった。それらに続き、交通路、城市（都市）、鉱産、塩業、陶磁器業、紡織工業等の分布図が作成されている。宋代・明代もほぼ同様である。陳教授は今年七月六日、広島大学総合地誌研究資料室において本書の作成過程、苦心談と三〇枚のスライド化された分布図を解説されたが、それは参会者の讚嘆をさそつた。

第一集はすでに香港で正式に出版されている。八二枚で図幅九六葉を含み、無綴箱入りである。うち四枚は彩色されている。第二集は印刷中であり、より多くの彩色された地図を含んでいるという。

この地図集を出版した「国際研究中国之家」は陳家の設立にかかると、一九七〇年までは敷明産業地理研究所として日本人にもよく知られていた研究機関である。一九四七―六四年の間、この研究所から一―二四号の研究報告が出版されたが、そのうち九四号「台湾地誌」（全三巻）は著名であり、富田芳郎氏によつて紹介された（地理評三七―七七）。その他の著作についても西村嘉助氏（地理評二六一―八）、石田竜次郎氏（地理評三六一―一）によつて紹介されている。なお陳教授は今年六月、日本学術振興会の招聘により来日され、来年三月まで滞在される予定である。（連絡先・七三四 広島市宇品東一―一七―一 広島女子大学今堀誠二学長気付）

（堤 正信・広島女子大学）